

揖斐川・杭瀬川の今昔 『夏の川遊び』

【揖斐川の川遊び】

- 夏になると川が遊び場だった。近くの大川では、よく泳いだ。川はプールとは違い、流れがあるため、疲れると浮いていれば、ゆったりと流されていって気持ち良かった。ただ、時期によっては、川の下の方が冷たいことがあり、足がつってしまい危ないこともあった。川は流れが速い所や遅い所、深い所や浅い所があり、場所によっては水面と下の方では流れが違うこともあった。しかし、そう言ったことは、全て上級生が教えてくれた。

(出典：大垣市史(民俗編)より)



平成26年6月撮影

58年前



大垣市万石地先(揖斐川右岸40.8K付近)・昭和31年撮影
市民水泳大会 出典：書籍「ふるさと大垣」より

【地元の古老に聞く昔の川遊び】

- 学校から帰ってきたら、カバンを放って、すぐに揖斐川へ行ってよく遊んだもんだ。特に8月になると、大垣市近郊の子供たちが揖斐川へやって来て、芋を洗うように、狭い所で大勢の人がひしめき合って遊んでいた。昔の揖斐川は水もきれいで、川遊びで疲れると、揖斐川の水を飲んで喉を潤した。そして、お腹が空いた時は、河原にある桑の実を食べて腹ごしらえをしたもんだ。
- 赤いレンガを川の中に放り投げ、そのレンガを川の中から拾い上げるのが、川の中で目を開ける1つの訓練だった。対岸の領家(安八町領家地内)に舟が係留されており、その辺りまで、ゆったりと流れながら泳いだ。舟に悪戯をして、よく舟主に叱られたもんだ……。 (笑)



- 当時、揖斐川の河川敷には所々に池があり、その中にズンバイ貝（カラス貝）が多くいて、そのズンバイ貝を釣り上げて遊んだ。池は水深が浅かったため、水温が高く、今で言うところの「温泉スパ」。川の中で泳ぎ、冷えた体を池で暖め、また川の中に入り遊ぶといった繰り返し。雨が降り出したことも忘れて夢中で遊んでいた。
- 河原には多くの里芋が植えられており、雨が降ると、里芋の葉っぱを頭の上に載せて、傘代わりにして雨をしのいだ。今でも、里芋の葉を見ると、当時の楽しかった思い出がよみがえり懐かしい。現代は、物が豊かになった反面、今の子は、そういう自然の中で遊ぶ楽しさを知らないの、かえって可哀想に思うわ。（大垣市三本木在住 Gさん 81歳）



カラス貝（地方名：ズンバイ貝）
写真：市場魚介類図鑑より

【杭瀬川の川遊び】

- 用水路のような小さい川でも、当時は堰き止めた所が各所にあり、丁度よい深さになっていて、そこが川遊びの場所になっていた。久瀬川では、山王用水のあちこちに洗い場が作られていたので、夏になるとその洗い場付近が子供たちの水遊び場になった。昭和初期には、まだ浮き輪がなかったので、使い古した自転車のチューブに空気を入れ、それを体に巻き付けて川の中に入った。低学年は山王用水に入ったが、高学年になると、杭瀬川の旧塩田橋付近や木戸河原まで行って泳いだ。（出典：大垣市史（民俗編）より）



平成26年6月撮影

63年前



大垣市赤坂新田地先・昭和26年撮影
杭瀬川で泳ぐ子供たち 出典：書籍「ふるさと大垣」より

【地元の古者に聞く昔の川遊び】

- 昔、学校にプールが出来る前は、杭瀬川の柳橋付近で泳いだり、橋から川の中へ飛び込んだりして、よく遊んだもんだ。わしが小学生だった頃は、海水パンツも珍しく、皆、「越中ふんどし」が当たり前の時代だった。
- 60～70年ほど前は、初夏に大雨が降り、杭瀬川が増水した時は、杭瀬川に仕掛けた網の中に、ひと晩でウナギあやの50匹ほど取れた。豊かな漁場だった。（大垣市綾野在住 Oさん 76歳）

